

# データ利活用による 「より豊かな社会」 の実現に向けて

経団連では昨年11月に公表した「Society 5.0 — ともに創造する未来 —」において、Society 5.0によって実現される未来社会の具体像を提示した。Society 5.0の実現には、AI、IoT、ビッグデータなどのデジタル革新を最大限に活用することが求められるが、私はそのなかでも「データ」が最も重要な要素であると考えている。

さまざまなデータを掛け合わせ、分析することによって、これまでになく新しい価値を生み出すことができる。同時に、気候変動をはじめとした地球規模の課題解決にも寄与することが可能となる。まさにデータは「21世紀の石油」と言っても過言ではないだろう。

貴重な資源であるデータだが、それを保有しているだけでは価値は生まれない。いかにデータを流通させ、多様な主体に活用いただくか

が鍵となるが、そのためには、いくつかの解決しなければならぬ課題があると感じている。

国際的に見た場合、データ流通をめぐる法制度や規制は各国によって異なっており、これが国境を越えたデータ流通を妨げる一因となっている。また、国内に目を転じれば、自社内にデータがとどまっている企業が多く、「流通」や「活用」させる環境にある企業はまだ多くはない。個人データについても、データ提供にためらいを覚える方が多く、利活用が進展しているとは言い難い。

私は今回、デジタルエコノミー推進委員長を拝命したが、これらの課題を克服するために、社会全体でデータを活用できる環境づくりを行っていきたくと考えている。

国際的には、DFFT（データ・フリー・フ



日本電信電話会長  
しのはらひろみち  
篠原弘道

ロー・ウィズ・トラスト）を掲げる政府と連携し、自由な越境データ連携を確保していくことが重要となる。各国の法的枠組みを尊重しつつ、公平性・透明性を確保できるような国際的なデータ流通の枠組み構築に向け、各国産業界等との対話を行っていきたい。国内では、データ利活用の具体的な事例を積み重ね、国民の皆様にとって、データ活用の便益と意義を実感していただくことで、データ提供や流通に関する不安感や抵抗感を払拭したいと考えている。

データ利活用については、概念論だけではなく、具体的な取り組みを推し進めることが何よりも重要となる。会員企業の皆様とともに知恵を絞り、汗をかきながら、データ利活用による「より豊かな社会」をつくり上げていきたい。